

### 3. 10年後の将来像

# “ホッとするとするまち しろやま”

地域ビジョン4つの柱から見た将来像

## (1) 安全・安心・教育

【あるべき姿】

◆世代間のコミュニケーションを深め ともに学ぶ 安心・安全なまち◆



## (2) 健康・福祉

【あるべき姿】

◆支え合い 心豊かに暮らせる 元気なまち◆



## (3) 地域コミュニティ

【あるべき姿】

◆相互信頼と相互扶助の精神に満ち 地域の絆づくりと  
隣人への思いやりを実践できるまち◆



## (4) 観光・地域産業

【あるべき姿】

◆自然と歴史とともに地域が輝き みんなが訪れるまち◆



## 4. 地域ビジョンの4つの柱

### (1) 安全・安心・教育

【あるべき姿】

◆世代間のコミュニケーションを深め ともに学ぶ 安全・安心なまち◆

#### ● 防犯防災分野 ●

##### 地域の現状

###### 強み

- \* 持ち家比率が高く、地元出身者が多い。比較的顔見知りが多い。
- \* 人に優しくあたたかい地域性で、団結力がある。
- \* 地元に着心のある消防団員が多く、団結力が強い。

###### 弱み

- \* 高齢者が増加の傾向にある。
- \* 日中留守世帯が増加している。
- \* 少子高齢化が進み、次世代の消防団員の確保に不安がある。

#### 目標1 高齢者や子どもが安心して暮らせるよう、地域の防犯体制を高めていこう

- 取り組み
- (1) 近所づきあいからコミュニケーションを深めていく。
    - ・ 近所同士の挨拶や、声かけ運動を推進する。
  - (2) 通学路の安全を確保する。
    - ・ 防犯灯の設置や見守りできる大人の協力者を増やしていく。
    - ・ 子ども110番の家を見直す。
  - (3) 地域の防犯体制を整える。
    - ・ 地域住民への情報発信網(防犯、地域情報などのメール配信)を整備する。

#### 目標2 地域防災活動の維持のため、消防団員を確保しよう

- 取り組み
- (1) 消防団員の活動内容をPRする。
    - ・ 消防団の広報活動やPRブースを地区市民センターに設置する。
    - ・ まちづくり組織の広報誌やホームページを活用する。
  - (2) 消防団員の育成を図っていく。
    - ・ 中学生を対象とした消防教室を開く。
    - ・ 成人式で消防団のPR事業を実施する。
  - (3) 自主防災会の再編を図っていく。
    - ・ 自主防災会の構成員の見直しを検討する。



防災訓練

## ● 交通分野 ●

### 地域の現状

#### 強み

- \* 自家用車の所有率が高い。
- \* スマートインターが開通する予定である。

#### 弱み

- \* 移動は車中心で、公共交通が限られている。
- \* 通学路の歩道などの整備が遅れている。

### 目標1 高齢者の移動の利便性を高めるため、公共交通の整備など移動手段を確保しよう

- 取り組み (1) 高齢者の移動手段を確保する。
- ・ コミュニティ協議会・連合自治会と連携し、地域内交通〔デマンドタクシー・ミニバス(企業バス)等〕の導入に向けて検討する。
- (2) 車なしでも生活に困らない環境を整える。
- ・ 自治会の協力を得て「買い物取次所」を設置し、買い物弱者を支援する。
  - ・ 地域内交通の巡回先に医療施設を検討する。

### 目標2 高齢者や子どもの交通安全対策を強化しよう

- 取り組み (1) 通学路の歩道や、ガードレールの整備など安全を確保していく。
- (2) 交通安全教室を開催するなど、交通安全の意識を高めていく。



子どもたちと高齢者の交流

## ● 教育(健全育成)分野 ●

### 地域の現状

#### 強み

- \* 地域の人子どもたちに優しい。
- \* 小中学校の児童生徒が真面目である。
- \* サークル活動が多い。
- \* 学校、各種施設、地域との交流の場がある。
- \* 地域の連帯感が強い。

#### 弱み

- \* 地域によっては学区が不便なところがある。

### 目標1 子どもと高齢者の交流を深め、子どもの健全育成や地域の教育力を高めよう

- 取り組み (1) 元気な高齢者に地域づくりのサポーターとして活躍していただき、世代間の交流を深める。
- ・ (各小中学校を開放し) 遊びを通して、高齢者や地域の方とのコミュニケーションを図る。
  - ・ 家庭教育力(親学)を高める。
  - ・ 20代、成人を巻き込んだ地域事業を企画する。
  - ・ 子ども(中学生)の観光ボランティアを育成する。

## (2) 健康・福祉

【あるべき姿】

◆支え合い 心豊かに暮らせる 元気なまち◆

### ● 医療福祉（高齢化・子育て）分野 ●

#### 地域の現状

##### 強み

- \* 時間に余裕のある元気なお年寄りが多い。
- \* 公民館や介護施設が比較的多い。

##### 弱み

- \* 高齢化が進み、人口が減少、空き家が増加している。
- \* 公共交通が少ない。
- \* 子どもを預けられる施設が少ない。

#### 目標1 高齢者の移動の利便性を高めるため、公共交通の整備など移動手段を確保しよう

- 取り組み (1) 高齢者の移動手段を確保する。
- ・ コミュニティ協議会・連合自治会と連携し、地域内交通 [ デマンドタクシー・ミニバス(企業バス) ] の導入に向けて検討する。
- (2) 車なしでも生活に困らない環境を整える。
- ・ 自治会の協力を得て「買い物取次所」を設置し、買い物弱者を支援する。
  - ・ 地域内交通の巡回先に医療施設を検討する。

#### 目標2 「地域住民の交流の場」の活性化を図ろう

- 取り組み (1) 地域の特性を活かした、参加しやすい魅力ある行事(イベント)を行う。
- ・ 自然を生かしたイベントを実施する。「農地・水環境保全事業」を活用する)
  - ・ 地域の祭礼に積極的に参加・協力し、祭りの賑わいを取り戻す。
  - ・ 学校行事に参加し、子どもたちとの交流を推進する。
  - ・ 「介護予防教室」「いきいきサロン活動」「高齢者等地域活動支援ポイント事業」の振興を図る。



しろやま健康まつり



体育祭



### 目標3 ひとり暮らし・高齢者・子どもの見守りを強化しよう

- 取り組み (1) 地域一丸となって支え合い、協力し合う体制を作る。
- ・見守り対象者のマップを作り、安否の確認に活用する。(包括支援センター作成のマップを活用)
  - ・子どもと高齢者の交流の場を作る。
  - ・「福祉協力員」の役割の重要性を未配置自治会に認識してもらい、全自治会に配置を促す。
  - ・在宅医療と医療機関の連携を図る。
- (2) 向こう三軒両隣・ご近所の底力を発揮できる体制を推進する。
- ・声かけ・あいさつ運動を推進する。



文化祭・農業祭

### 目標4 子育てを推進しよう

- 取り組み (1) 地域全体で子育て支援活動を推進する。
- ・小さな子どもたちを、公民館で一時預かりする。
  - ・地域で子どもたちが集まりやすいイベントを企画する。
- (2) 元気なお年寄りに地域づくりのサポーターとして、協力をお願いする。
- ・伝統文化を子どもたちに伝承する。

## ● 健康 (スポーツ) 分野 ●

### 地域の現状

#### 強み

- \* 自然と共有したスポーツが盛んである。
- \* 交流拠点としての設備環境が整っている。

#### 弱み

- \* いきいきサロン活動等の参加者がなかなか広がらない。

### 目標1 身近な運動・健康増進を図ろう

- 取り組み (1) 誰もが楽しめる身近な運動を推進する。
- ・身近な施設で楽しめる健康運動を実施する。
  - ・地域の健康運動指導者を育成する。
  - ・スタンプラリー・ウォーキング等、地域のイベントを企画し、事業をPRする。
- (2) 健康食を広める取り組みを実施する。(目指せ「長寿日本一」!!)
- ・料理教室等を開催するなど、減塩への取り組みを実践していく。



老人クラブスポーツ大会



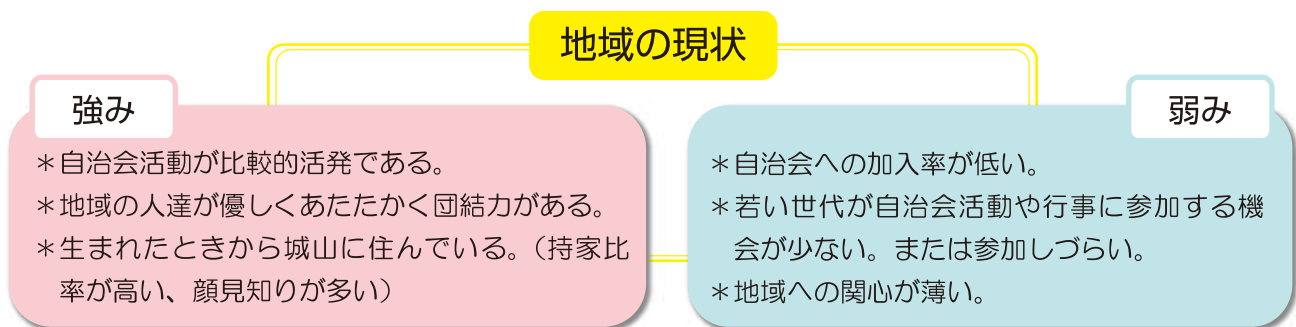
高齢者料理教室

### (3) 地域コミュニティ

#### 【あるべき姿】

◆相互信頼と相互扶助の精神に満ち  
地域の絆づくりと隣人への思いやりを実践できるまち◆

#### ● コミュニティ（市民活動）分野 ●



#### 目標1 地域の絆づくりや助け合いの心を育てるための環境や仕組みをつくろう

- 取り組み (1) 気楽に集まれる楽しい場所をつくっていく。
- ・自治会館、公民館を終日開放して、施設の有効活用にもつなげる。
- (2) 地域の一員としての自覚や愛着を持たせる運動を推進する。
- ・あいさつ運動を実施する。（隣人からあいさつを始めよう）
  - ・一家に一鉢、花を飾ろう運動を実施する。（花いっぱいのもちをつくろう）
- (3) 一人一人が、何が出来るかを考えて行動する運動を推進する。
- ・ありがとう運動に取り組み、広める。（隣人に頼られてありがとう、隣人にやっってもらってありがとう）

#### 目標2 自治会加入を促進しよう

- 取り組み (1) 連合自治会は、コミュニティ協議会加盟団体と連携して地区全体の加入世帯の増加に努めていく。
- ・個別訪問等により、自治会未加入者だけでなく加入者に対しても、自治会活動の有用性について説明し、行事等への参加・協力を呼び掛ける。
  - ・活動状況を随時、活動報告として回覧し、掲示板に掲示して広報する。
  - ・自治会役員は、活動状況の報告会を適宜開催して、自治会住民の意見や要望等に対処する。

## ● 地域情報分野 ●

### 地域の現状

#### 強み

\* 情報発信を継続的に行っている。  
 (広報誌は平成6年～、ホームページは平成15年～)

#### 弱み

\* 加盟団体や自治会等から活動情報が集まらない。  
 \* 広報誌については、年2回の発行のため、情報がタイムリーでない。  
 \* 自治会の回覧は、日数がかかるため、伝えたい情報が陳腐化してしまう。

### 目標1 地域の情報誌・ホームページについて、情報収集や伝達方法を強化しよう

- 取り組み (1) コミュニティ協議会加盟団体、地域住民等は、コミュニティ協議会広報部会に活動情報を提供し、コミュニティ協議会広報部会は、これらの情報をフィードバックし、地域全体で情報の共有を図る。
- ・ コミュニティ協議会加盟団体は、広報担当者を選任し、随時、活動情報をコミュニティ協議会広報部会に提供するとともに、その取材に協力する。
  - ・ 収集した活動情報は、地域住民すべてに、ホームページや情報誌、掲示板等で伝達する。

### 目標2 コミュニティ協議会広報部会の活性化を図ろう

- 取り組み (1) 楽しく参加しやすい情報発信組織を作っていく。  
 (2) 若者の参加を募り、若者の視点を取り入れた情報を発信していく。
- ・ 地域をよく知る人、女性、退職者に参加を呼び掛ける。
  - ・ コミュニティ協議会加盟団体の広報担当者と情報交換を密にしていく。
  - ・ 他の地区の広報担当者と連携し、情報交換する。(情報収集方法、編集方法など)



花いっぱい運動



隣人と近所の公園にて



自治会の花見会

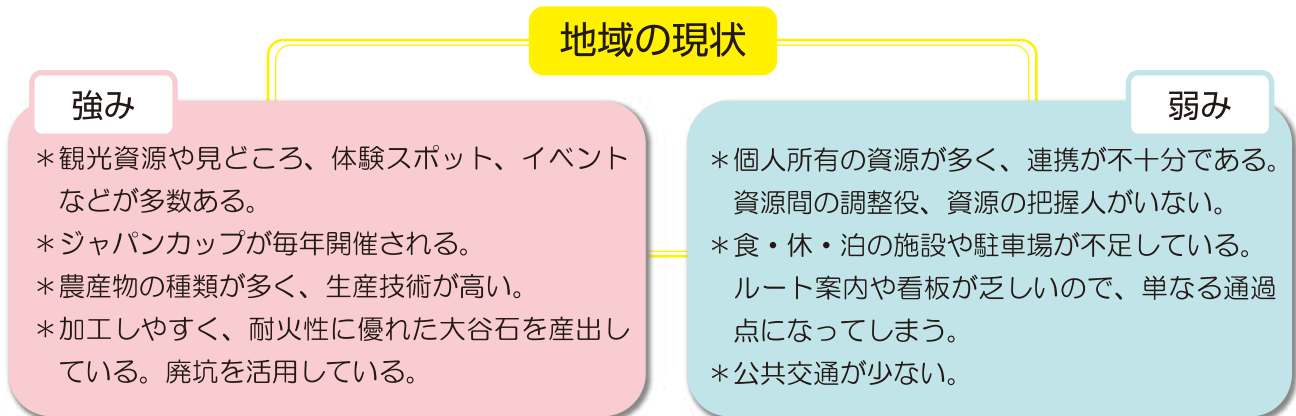


## (4) 観光・地域産業

【あるべき姿】

◆自然と歴史とともに地域が輝き みんなが訪れるまち◆

### ● 観光（イベント）・地域産業分野 ●



#### 目標1 「観光資源などを観てもらふところ」と「食事やトイレなどの休んでもらえる場所」を考えよう

- 取り組み (1) 整備にあたっては、全体のバランスを考えて計画し、拠点施設から取り組んでいく。  
(2) 点在する観光スポットをつないで、観光地として総合的にプロデュースしていく。  
(3) 民間企業や土地の所有者なども巻き込み、地域を上げて事業を展開する。  
・観光客の感覚で観光ルートを実地見聞する。

#### 目標2 「城山らしい 食にこだわったモノ」をつくろう ⇒「地域ブランド」を確立しよう！

- 取り組み (1) 城山地区で採れる食材を使って名物料理をつくる。  
・地区内でどんな料理が作られているかを調べ、様々なメニューにアレンジする。  
(2) 城山特有の体験型観光を充実させる。  
・大谷石切りの機械も、この地区だけのものなので、積極的に活用していく。  
(3) 城山ブランドを認定する仕組みをつくる。  
・今あるもの（大谷ウメリキュールなど）を城山ブランドとしていく。



### 目標3 観光と地域産業を「結びつけてまとめる調整役」と「説明できる案内役」を育てよう ⇒ひとづくり

- 取り組み
- (1) 各分野のエキスパートや名人などの技術や知識等を活かし、発展継承させる。
    - ・ジャンルごとの有識者等をリストアップし、技術や知識等を集約する。
    - ・マニュアル（城山辞書）や年表（城山史・社会科副読本など）をつくる。
  - (2) 観光や地域産業についての関心を高め、知識の底上げをしていく。
    - ・中学生を対象に、地域を知る機会を設け、長期的展望で人づくりをしていく。
    - ・気軽に集まり、意見交換ができる雰囲気と場所をつくり、将来的には、観光の拠点となる案内所の設置をめざす。

### 目標4 「観光客のニーズ」や「消費者のニーズ」を知ろう

- 取り組み
- (1) 客層を年代や性別ごとに分類し、流行や関心事を把握する。
    - ・資料館などで継続的にアンケート等を行い、ニーズを調査する。
  - (2) 大谷石の特色や、城山として見てもらいたいものなど伝えたいことの柱を設ける。
  - (3) 外国人にもやさしい観光地にしていく。
  - (4) リピーターの多い観光地をめざしていく。
    - ・旅行会社からノウハウを聞き取り、ポイントなどをしぼる。
    - ・わかりやすい案内板や標識を設置する。

### 目標5 「情報を収集し発信するしくみ」を構築し「効果的な宣伝」をしよう

- 取り組み
- (1) 地域の情報が集まりやすい拠点をつくる。
    - ・新たな複合施設(休憩所や観光案内、お土産販売所など)を設置の際には、地域情報が集まりやすいようにしていく。
  - (2) パソコンやスマートフォンなどを活用し、ツイッターやフェイスブック、ラインなどによりクチコミで情報が広がるようにする。
    - ・コミュニティ協議会広報部と連携を図り、情報発信の役割を明確にする。  
(伝えたい対象者を若者に絞った場合は、大学生などが企画に参加しやすいように工夫する)

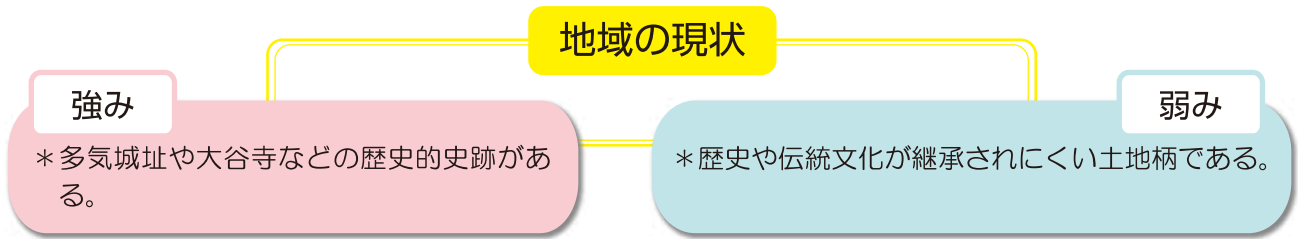


フェスタ i n 大谷



フェスタ i n 大谷

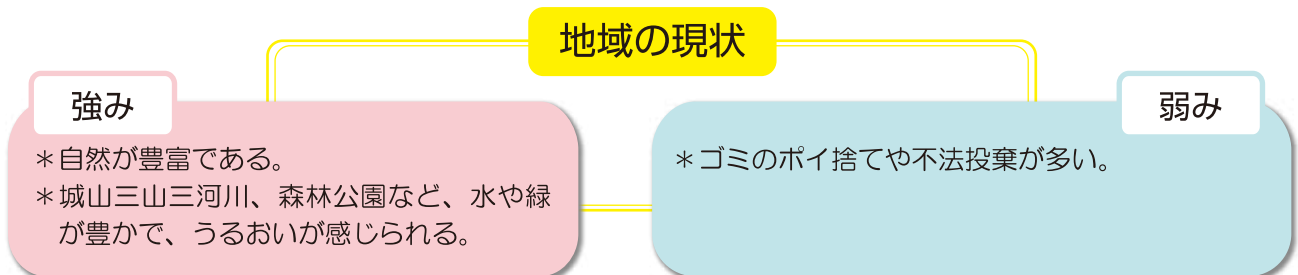
## ● 歴史文化分野 ●



### 目標1 「歴史・文化をまとめ城山地区の住民が共有」できるようにしよう

- 取り組み (1) 各分野のエキスパートや名人などの技術や知識等を活かし、発展継承させる。
- ・ジャンルごとの有識者等をリストアップし、知識等を集約する。  
(マニュアル[城山辞書]や年表[城山史・社会科副読本など]をつくる)
- (2) 住民が歴史や文化に関心を持ち、知る意欲を高めていく。
- ・大谷石産業の歴史の中で、城山の特徴を調査する。(大谷通運、トロッコ、馬車など)

## ● 自然環境分野 ●



### 目標1 「城山らしい まちなみ景観」をつくりだそう

- 取り組み (1) 大谷石の建物や石塀等を大切にし、景観にも配慮する。
- ・草を刈り、岩を見せる工夫をする。
- (2) 大谷石を使ったプランターや灯ろうなどで、おもてなしの気持ちを表現していく。
- ・大谷石プランターや大谷石灯ろうを制作し、道路沿いなどに設置して城山らしさを演出する。
- (3) ごみのない地域にしていく。
- ・城山全体でクリーンアップに取り組む。
- (4) 新たな複合施設(休憩所や観光案内所、お土産販売所など)の設置の際には、大谷石を活用していく。
- ・新たな複合施設の設置に向けた組織を立ち上げる。



クリーンアップ城山

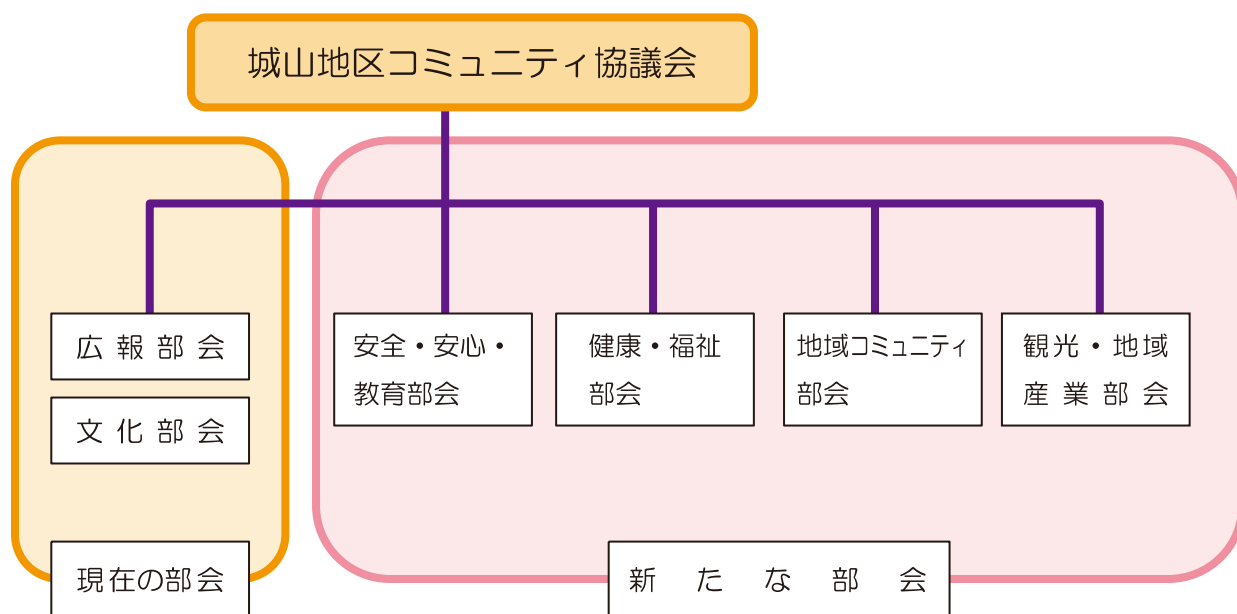
## 5. 地域ビジョンの実現に向けて

城山地区のこれからの10年を見据えた地域ビジョンの策定にあたりましては、地域の皆さんのアンケートや各団体・関係機関の代表者の貴重なご意見やご協力により検討を進めてまいりました。

今後、掲げた目標の実現に向けて、私たちは「安全・安心・教育」「健康・福祉」「地域コミュニティ」「観光・地域産業」の4つの柱を推進してまいります。そのためには、これまで検討を進めてきた部会の皆さんをはじめ、地域の皆さんや事業者、各種団体が行政と連携して取り組んでいくことが重要と考えます。

当地域がかつての賑わいを取り戻し、人とひととのつながりを一層強化しながらの地域づくりに、城山地区の皆さんの積極的なご参加、力強いご支援をよろしくお願い致します。

### ● 組織イメージ



#### 《地縁・目的団体・公的機関等》

・ 連合自治会・青少年育成会・体育協会・防犯協会城山支部・交通安全推進協議会・社会福祉協議会・子ども会連合会・老人クラブ連合会・食生活改善推進員協議会・健康づくり推進員会・民生委員児童委員協議会・活力あるむらづくり推進協議会・婦人防火クラブ・消防団城山分団・交通安全協会城山支部・遺族会・総合開発推進協議会・城山地区PTA連絡協議会・JAうつのみや城山支所・JAみどり会・城山ジュニアリーダーズクラブ・大谷石あかり隊・城山地域包括支援センター・大谷石材協同組合・城山地区小中学校地域協議会・城山中央小学校・城山東小学校・城山西小学校・城山中学校など





孝子桜まつり



大谷資料館



よみがえれ大谷(あじさいの剪定)



ジャパンカップロードレース



ジャパンカップコスモスロード